

通年生産で冬期も作業

～アルストロメリア出荷順調～

常盤基幹支店管内で、生産量の多い花き「アルストロメリア」の出荷が順調です。気候が温暖な4月から5月に収穫最盛期を迎えますが、施設栽培で通年生産をしているため、冬も作業を行っています。



アルストロメリアを出荷した奈良岡さん

ピンクパフェやハニーソフィアなど約10種類のアルストロメリアを栽培している奈良岡一美さんは2月16日、箱詰めしたものを常盤青果センターに出荷しました。奈良岡さんは「燃料の価格高騰などで状況は厳しい。状況が良くなることを願いながら、消費者に喜ばれるアルストロメリアを栽培していきたい」と話しました。

同青果センターの佐々木篤統括は「コロナ禍の影響からブライダルや葬祭など業務需要が低迷する中、家庭消費や企業などへ生花の持つ癒し効果を積極的にPRし消費拡大につなげたい」と話しました。

おいしい野菜をありがとう

～JAきたみらいから野菜贈呈～

当JAは、全国で「みらい」の名称を持つ10JAで構成する「みらいサミット」が縁で、北海道のJAきたみらい（大坪広則組合長）と交流があり、8年前から合同で食農教育を実施しています。

これまでは、JAきたみらいが黒石市と平川市を訪れて馬鈴薯（スノーマーチ）と玉ねぎの贈呈式を行っていましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため行わず、両市役所が小学校などへ配布しました。



市役所職員（右）から野菜を受け取る児童（黒石市）

職員のスキルアップ図る

～初級職員研修会～

当JAは2月17日、若手職員を対象とした初級職員研修会を本店で開きました。一戸誠常勤監事が講師を務め、出席した職員11人が仕事の進め方や組合員対応、適切なコミュニケーションなど学びました。研修会の終わりには、学んだことをどのように今後の業務に生かすかを発表しました。

JAでは今後も研修会などを開催し、職員の育成に取り組みます。



仕事の進め方などを学んだ職員